

て強化材にしたスキーを作っております。この当時、海外からはメタルスキー、国内ではアルミ板を使ったメタルスキーを作っておりましたが、当時のスキー場は斜面の整備もなく、荒れていて柔らかい所を滑りますから、スキーがフレキシブルでないと対応が出来ない。そこにメタルを使うと曲がりや剥がれが多くなりました。

実際、メタルやスチールの強さは役に立つものですから、フレキシブルであって切れのあるスキーを作るためには、スチールファイバーを使ったスキーを作っておりました。



1966年から1999年までの約33年間に亘って、同じデザインで13~14万円。

当時としては高いスキーを売ってまいりまして、皆さんに可愛がっていただいたということでございます。

昭和40年代半ばになりますと、単板や合板スキーは姿を消し、殆んどがグラスやメタルで強化されたスキーに変わってきております。この頃は、日本のスキーは海外輸出が盛んで、低価格が殆んどでした。日本国内で210万台のスキーが生産さ

れており、そのうち120万台が輸出されておまして、スキー産業が盛んな時でございます。

先ほど申しましたように、43社これは大工、木材屋、建具屋など、ありとあらゆる木材関係の方々が、いろんな地方でスキー作りに参入されていたことが、この時期でございます。この当時、スキーの輸入台数は9万台と言われております。ところが、昭和46年にドルショック、昭和48年にはオイルショック、そして昭和52年に第二次オイルショックが来まして、なおかつ円高ということで、それからの日本スキー産業界は壊滅的な打撃を受けて行きます。輸出に携わっていたところは、40年後半から50年にかけて、殆んどのところが転業されたのでございます。「私共のスキーのつくり方では、おっしゃられた価格ではスキーはできない」と、一切輸出はしませんでした。

昭和48年になりますと、今までには無いケブラー繊維、これはアラミッドファイバーであります。防弾チョッキなどに使われ、大変丈夫な引っ張り強度が強い、また返る力も強い繊維です。これを使ったスキーが「K&V」でございます。当時盛んにもてはやされていたのがカーボン繊維でしたが、二番煎じではなく我が社独自の物を開発しようと研究開発に努めた結果でありました。アラミッドファイバー・ケブラー繊維という、新しい繊維を使ったことに亀倉先生も大変乗り気になって、真っ黒のところにオレンジで「K&V」と大変衝撃的なデザインを作っていただきました。

「K&V」は、先生の作品集に載せていただいたデザインでございます。

その当時、ケブラーを使ったスキーは今までのグラススキーや木のスキーとは乗り味が全然違うということで、長野市近郊の戸隠スキー場に常設の小屋を造り、スキーを置いてスキー場に来られるお客様に乗ってもらったり、講習会を開いて多くの人に乗ってもらおうと、試乗会を始めたのは国内では第1号だろうと思っております。

その後、昭和50年にはユニティーというスキーを出しておりましたが、平成6年に選手側から切れ

